

令和5年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立大東小学校)

学校番号 025

目指す学校像 みんなキラキラ さわやか笑顔の大東小学校を目指して「夢と希望の溢れる学校」「よさを見つけて伸ばす学校」「家庭地域社会と共に歩む学校」

重点目標	1	学びの自律化と個別最適化・探究化の推進による主体的・対話的で深い学びの実現	(学力向上)
	2	生徒指導体制、教育相談体制の充実と教育環境の整備による安心・安全な学校づくりの推進	(安心・安全)
	3	地域とともに児童の健やかな成長と安全を見守るコミュニティ・スクールの推進	(地域とともにある学校づくり)
	4	誰もが働きやすく、一人ひとりが力を発揮することができる教職員集団の醸成	(教職員の資質向上)

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価		学校運営協議会による評価						
年度目標		年度評価						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の各平均正答率は、全国、市を下回っている状況である。 ○3年間にわたる「主体的・対話的で深い学び」「ICT教育等」の研究を行い、教職員や児童のICT活用に関する意識・技能が向上した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○解答を記述する問題の無回答率が全国、県と比較して高い傾向であった。自分の考えを表現することに苦手意識が見られる。 ○「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」について課題が見られる。ICTの効果的活用を通して、主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善を行うことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・表現力の向上に向けた授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の最新の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリングを受けることで、より効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の学力向上を図る。 ○児童が思考する時間を十分に確保し、友達と自分の考えを伝えたり、議論したりする機会を確保した授業改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①調査結果の分析や学力向上カウンセリングを踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定し、実践することができたか。 ②市学習状況調査において、「思考力・判断力・表現力等」の平均正答率が前年度より向上できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「リーディングDXスクール事業」の講師による講演、授業指導を計5回実施した。「学びのポイント『じ・し・や・く』」「個別最適な学び」「協働的な学び」を視点とした授業改善が大きく前進した。 ②調査日に全国的なネット接続の不具合があり、調査結果が「参考値」扱いとなった。前年度との比較ができない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の成果に、各教科の本質的な学びである「見方・考え方」をベストミックスした授業スタイルを創造し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を深化させる。 ○「思考力・判断力・表現力等」を高めていくために、アウトプットできる場の充実を図っていく。 	<p>学校運営協議会による評価</p> <p>実施日令和 令和6年2月22日</p> <p>学校運営協議会からの意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTを文房具化することは社会の流れだと思うが、具体的な活動を通して学習することとのバランスをとること、学んだことを実生活の中で生かすことも大切にする。 ○昨年よりさらにICTの活用が進んでいる。協働的な学びにもつながっている。今後、小中高の接続が重要である。 ○スクールダッシュボードは、よい仕組みなので活用することはよい。研究を進めてほしい。あわせて児童と教員のコミュニケーションも大切にして指導・支援に当たること。
2	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は90.6%で全国、県の平均を上回った。 ○昨年度、施設設備の不備等が主な原因と考えられる児童のけがは発生していない。学校管理下のけがで医療機関を受診した件数は32件であった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの悩みや家庭の状況が多様化しており、一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に適時、適切に支援していく必要がある。 ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職に相談できることがまだまだ保護者に認知されていない現状がある。 ○施設設備の安全点検を確実に行うとともに、児童が自ら危険を予測したり、安全に行動したりする力をはぐくむことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめの早期対応と早期解決に向け、教職員研修等を通してのいじめの認知について共通理解する。 ○各種アンケート、保護者面談等から得られた情報を基にケース会議等を開き、迅速かつ組織的に対応する。 ○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の相談につなげるよう保護者への積極的に周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価「相談対応」に係る項目において、肯定的に回答する割合が85%以上となったか。 ②組織的かつ迅速な対応が必要な場合には、ケース会議を開催し、具体的な手立て等を共有することができたか。 ③学校だより等を通して、担任や管理職、専門職との教育相談がいつでもできることを発信することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童95%、保護者92%であった。 ②定期的に児童理解研修を実施、要配慮児童の情報を共有の上、必要に応じて生徒指導・教育相談部、SC、SSW、外部機関等も含めて組織的、継続的に支援に当たった。 ③学校だより等を通して、教育相談の周知、専門職の勤務日等の情報発信を継続した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめについては、全教職員でいじめの定義を共通理解し、積極的に認知を行った上で、迅速、組織的な解決をする。引き続き「いじめ見逃し『0』」の姿勢で取り組む。 ○「Solaルーム」を円滑に運用する体制を整備し、要配慮児童への支援を充実させる。 ○児童が課題を自分事として捉え、主体的に解決に取り組むエージェンシーの育成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめの取組がよく理解できた。今後もいじめ見逃し「0」を目指して取り組むこと。 ○Solaルームが来年度から始まる。効果的に活用して、不登校の児童が学校へ、教室へとステップアップできるように取り組むこと。 ○大きな事故がなかったことは評価できる。ハインリッヒの法則にあるように、小さなことの積み重ねが大きな事故につながる。日々の点検をしっかりとすること。 ○危機管理に対する情報共有が不十分な案件がある。必要なことが確実に情報共有できる体制をとること。
3	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会では、活発な熟議がなされ、「あいさつ」が充実するための学校・地域・家庭の連携や学校運営協議会がさらに充実するための方策等を検討することができた。 ○学校、家庭、地域が連携して3年ぶりに地域行事を開催した。子どもたちに地域行事の楽しさや地域のよさを味わわせることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会の充実に向け、委員構成や教職員の参加による活性化、家庭、地域への情報発信による協働体制の構築が必要である。 ○コロナ禍でSNS会議や民生委員連絡会の実施ができなかった。連携強化を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能なコミュニティ・スクールの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会において、「あいさつ・コミュニケーション力」を向上するための熟議を継続し、持続可能な目標、取組を設定し推進する。 ○児童会を主体とした校内や小中連携のあいさつ運動、PTAやSSNと連携したあいさつ呼びかけ等を実施する。 ○学校公開、参観懇談、学校行事公開、学校Webページ、学校安心メール、YouTube等、多様な機会、媒体で「目指す学校像」「目指す児童像」「教育活動」等の情報を積極的に発信して共通理解、連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価「コミュニティ・スクール」に係る項目において肯定的に回答する割合が80%以上となったか。 ②学校評価「あいさつ」に係る項目において、肯定的に回答する割合が85%以上となったか。 ③学校評価「学校教育方針」「教育活動公開」において、肯定的に回答する割合が前年度以上となったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、保護者83%であった。市学習状況調査該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童95%であった。 ②学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童85%、保護者74%であった。児童会を中心にPTA、中学生、スポーツチーム等と連携して活性化を図った。 ③学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、児童87%、保護者92%であった。校長講話Youtube公開、参観・懇談、個人面談、学校公開実施、学校だより等で学校教育目標及び目指す児童像を積極的に発信した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクールについては、引き続き保護者、地域、教職員へ周知を行い教職員の参加を促す。 ○学校運営協議会で熟議を継続し、「あいさつ」「コミュニケーション」について、地域で共有できる持続可能な目標、取組について設定し、役割分担、協働しながら取組を推進する。 ○今年度は多くの機会が保護者、地域の皆様に来校していただいた。この実績をベースに、授業や行事等の公開、情報発信の方法について、改善の検討を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で様々な地域の活動がストップした。再開しようとするが、メンバーが代わり「知らない」「分からない」で円滑に進まないことがある。「昔は～だった。」という意識から「令和の事業への見直し」「メンバーの若返り」などの変革を進めているところである。学校運営協議会委員も「若返り」をして活性化するとよい。
4	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ICT教育等」の研究校として、エバンジェリストを中心に、ICTに関する知識と技能を高め、効果的に授業で活用していくための教職員研修を意欲的に行い、「教育DX」を推進した。 ○教職員研修で得た知識をもとに、学校行事や業務改善に活用するための職員からのアイデアを取り上げ実践してきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○初めて教職につく教員や経験が浅い教員、異動してきた教員が自信をもって子どもに向き合っていくための支援体制の構築が課題である。 ○高学年教科担任制、STEAMS教育、SDGs教育等の取組について研究、研修を進め、授業改善に取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりがスキルアップを図り、力を発揮することができる教職員研修の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修主任、エバンジェリストを中心に自走できる研修を実施し、それを基にした教職員からのアイデアを収集し、授業改善や業務改善に積極的に取り入れる。 ○初任者研修、年次研修、学校課題研修、指導訪問等を活用して教員同士が学び合う場を充実させる。 ○授業観察を計画的に行い、年次や経験等に応じ「学びのポイント『じ・し・や・く』」「キャリアnavi」等を基に指導助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教職員のアイデアを生かし、年間3つ以上の授業改善、業務改善に向けた新たな取組を実施できたか。 ②学校評価「教職員研修」において、肯定的に回答する割合が85%以上となったか。 ③学校評価「授業改善」において、肯定的に回答する割合が85%以上となったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「家庭付文書デジタル配信」「会議バーレス化」「デジタル起案」の実現をはじめ、「集金の口座振替移行」等、教職員の発想を基に業務改善を推進することができた。 ②学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、教職員84%であった。「自走スタイル」の研修が定着した。協働授業づくり、授業提案、相互授業参観、フィードバックが日常的に実践され、学び方、教え方の改善が着実に進んでいる。 ③学校評価該当項目において、肯定的な回答の割合は、教職員86%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の特長であるICTを生かした教育DX(学び方改革・教え方改革・働き方改革)を継続し、児童、教職員にとってWell-beingな学校づくりを推進する。 ○ICTの活用については、人事異動によるスキル、取組の差が課題となるので、次年度以降もICT活用研修を充実させ、継続的に学ぶことができる環境づくりを行う。 ○今年度から始まった「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」を充実させ、年次や経験等に応じて、教職員のスキルアップを支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○以前は20時を過ぎても煌々と学校の明かりがついていた。先日18時30分過ぎに職員室に行ったら、残っている教職員が少なかった。とてもよいことである。教員不足の時代である。これからも働き方改革を推進して働きやすい環境をつくること。 ○自走の研修はよい取組である。教職員が研修する時間をしっかりと確保して、教職員の学びを保障すること。